

ぴちインフォ <生化学検査 Part 4 > 2008・5

疾患の診断や経過観察に行われる血液検査・生化学検査は、服薬治療等による副作用の有無(各種臓器機能障害)や現在の病態を確認する上でも重要な検査です。通常2～3ヶ月に一度行われます。

今回は、患者様からのご質問が多く、検査に関連したものを、数点簡単にご説明いたします。

①早朝空腹時に採血するのは何故？食事をすると、検査値に影響が出るの？

食事をすると、消化吸収により血糖値(GLU)や中性脂肪(TG)が上昇します。食事の影響を受けない検査項目(コレステロールやHbA1c)もありますが、食後に採血すると中性脂肪等により血液が濁った状態(乳び血清)になり、検査項目によっては測定値が実際より高目・低目に出る事があります。正確な病態を把握するためにも、早朝空腹時に採血して下さい。

②尿の検査が、起床時の尿で中間尿を取るよう指示されるのは何故？

起床時の一番尿は最も濃縮された状態にあり、検出しやすいからです。中間尿で採尿するのは、雑菌が尿中に混入しない様にするためです。検査項目によっては、蓄尿を用いる場合もあります。指示に従い、採尿して下さい。

③検査値が基準値内になったのに、どうしてお薬を飲み続けないといけないの？

基準値内になると嬉しくなり、もう服薬の必要が無いとお感じになる患者様が多い様です。しかし、服薬により病態が改善されたのです。自己判断で勝手に服薬を中止すると、逆戻りしかねません。先生の指示に従い、きちんとお薬を服用して下さい。

④お薬が、検査値に影響を及ぼす事があるの？

- ・お薬が検査項目の産生・代謝に影響を与えるもの(薬理学的干渉)
- ・薬剤自体が干渉して測定値に影響を与えるもの(測定方法論的干渉)

があります。検査値に影響する薬剤については、先生が十分把握しておられますので、併用しているお薬や一般薬・サプリメント等がありましたら、必ず先生に申して下さい。

基準値は、測定方法や検査施設によっても微妙に異なります。お手元にある検査結果に記載されていますのでご確認下さい。基準値内かどうかで一喜一憂するのではなく、検査データを総合的に判断する事が大切です。ご不明な点は、医師・薬剤師にご確認下さい。